事例No.	2362
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	広島県安芸高田市

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・移住定住 ・福祉・介護

事例種類	地域運営組織

事例内容・タイトル

合併前の６町をベースとした組織形成（広島県安芸高田市）

出典

平成28 年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業事例集

【広島県安芸高田市】合併前の6町をベースとした組織形成

「危機感」から「夢」の実現に向けて

組織形成のポイント

1. 6町合併を契機に、32 の地域振興組織と6つの連合会を整備

安芸高田市では、川根地区において昭和 47 年の集中豪雨による水害を契機として地域振興組織が設立され、その後、昭和 50 年代にかけて旧吉田町及び旧高宮町においても地域振興組織の形成が図られてきた。

平成 16 年の６町合併に際し、住民の意向が施策に反映されるシステムの形成と、集落単位での自治機能の低下への対応を図る観点から、合併前までに市全域に 32 の地域振興組織と、旧６町をベースとした連合組織が整備された。

2. 廃校跡地の活用検討から「夢」の実現へ

川根地区では、廃校となった中学校の跡地・施設利用を検討する過程で、地域の将来像を描いたイメージイラストマップ「川根夢ロマン宣言」を作成し、その夢の実現に向けた取り組みを行っている。生桑地区でも、廃校になった小学校の跡地利用を含めて地域のあり方を検討する中で、自治意識が高揚し、生桑振興会の設立へとつながった。

持続的運営のポイント

1. 対話の場の確保

住民の組織活動を推進していくために、地域の課題や将来展望、行政の施策等について話合いをすることが重要。安芸高田市では、行政が主催する「テーマ別懇談会」、地域振興組織が主催する「自治懇談会」、女性会等の団体が主催する「団体懇談会」を設けて、地域と行政の情報共有を図っている。

2. 地域住民の生活を支える店舗等の経営

川根・生桑の両地区とも、ＪＡのガソリンスタンドや日用品店舗の閉鎖に直面した。地域住民の生活を支えるという観点から、川根地区では、地域住民が出資して店舗等を経営し、生桑地区では、生桑振興会が設備の更新を行い経営を行っている。

地域運営組織の設立状況

32 の地域振興組織と６つの連合組織を市全域に整備

広島県安芸高田市は、広島県の中央北部に位置し、広島市に隣接し、北は島根県と接している。平成 16 年３月に、高田郡６町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）が合併して安芸高田市となった。人口は 3 万人弱であり、人口減と高齢化が進行している。

安芸高田市では、川根地区において昭和 47 年の集中豪雨による水害をきっかけに川根振興協議会が設立されるなど、一部の地域において、早くから地域運営組織の形成が図られていた。

平成 16 年の６町の合併に当たり、住民の意向が施策に反映されるシステムの形成が必要になったことや、集落単位における自治機能（地域資源管理機能、相互扶助機能）の低下を区域単位で対応していく必要が生じたことから、地域運営組織の設立が検討された。合併協議会において、一部の地域で設置されていた地域振興組織を合併までに、６町単位で設置することが確認された。

この結果、平成 16 年３月までに、32 の地域振興組織と旧町単位で６つの連合組織が整備された。

地域振興組織は、小学校単位や旧村単位で形成されており、また、それらの区割りは住民によって行われており、規模は 40 世帯程度のところから 2,300 世帯強のところまで様々なものとなっている。

連合組織は、各地域振興組織の意見を集約するとともに、地域間の活動の連携等を図っている。

≪32 の地域振興組織と 6 つの連合会≫

吉田町地域振興会連絡協議会（H14）
- ○ 吉田地区振興会（S53）
- ○ 丹比地区振興会（S53）
- ○ 可愛地区振興会（S53）
- ○ 郷野地区振興会（S53）

八千代町地域振興会連絡協議会（H16）
- ○ 土師・勝田地域振興会（H15）
- ○ 佐々井地域振興会（H15）
- ○ 下根振興会（H15）
- ○ 上根・向山地域振興会（H15）

美土里町地域運営協議会連合会（H16）
- ○ 横田振興会（H14）
- ○ 本郷地域づくり協議会（H13）
- ○ 北振興会（H13）
- ○ 生桑振興会（H14）

甲田町地域振興連合会（H15）
- ○ 小原地域振興会（H14）
- ○ 小田東地域振興会（H15）
- ○ 甲立地域振興会（H14）

高宮町地域振興会連絡協議会（H14）
- ○ 川根振興協議会（S47）
- ○ 下佐振興会（S54）
- ○ 志部府親交会（S58）
- ○ 上佐一心会（S58）
- ○ 船木振興会（S56）
- ○ 房後連絡協議会（S57）
- ○ 来原地区コミュニティづくり連絡協議会（S53）
- ○ 羽佐竹振興協議会（S57）

向原町地域振興会連絡協議会（H16）
- ○ 保垣地区振興会（H15）
- ○ 有留自治振興会（H16）
- ○ 長田上地域振興会（H16）
- ○ 長田下地域振興会（H16）
- ○ 向井原地域振興会（H15）
- ○ 坂下地域振興会（H16）
- ○ 坂中地域振興会（H15）
- ○ 坂上地域振興会（H15）
- ○ 戸島地域振興会（H16）

※図中の括弧内は設立年

組織運営支援から事業支援へ

地域運営組織に対する財政的支援としては、「活動支援助成」と「事業支援助成」がある。

「活動支援助成」は、組織運営に対する支援であり、1,800 万円の予算を６つの連合組織に割り当てている。「事業支援助成」は、2,160 万円の予算を６つの連合組織に事業単位で配分しており、一定の上限を設けつつも、活動の活発な地域に対して支援していくものとなっている。今後は、組織運営支援から事業支援へとシフトしていくことを予定している。

職員が一住民としての地域活動へ参加

安芸高田市では、行政職員が地域活動へ積極的に参加している。ただし、これは強制的に配置しているのではなく、一住民としてボランティアで参加している。主に、国の事業・農業関係の事業の事務処理などの組織運営の下支えやコーディネート、地域への情報提供機能を担っている。

このような地域活動への関わりにより、住民との信頼関係が構築されるとともに、職員個人としての課題発見能力、課題処理能力の向上にもつながり、また、地域との関わりの中から、普段の業務へも反映できる点があると考えている。

まちづくりサポーター保険制度

安芸高田市では、「まちづくりサポーター保険制度」を設けている。この制度は、市内の市民活動団体又は市民活動団体で活動している人員によるボランティア活動などの市民活動中の事故等に係る賠償責任・傷害保険料を市が負担するものである。この保険制度の利用にあたっての事前登録は不要となっている。

対話の場の確保

住民の組織活動を推進するためには、行政の積極的な情報公開と共有が重要であるとの考え方のもと、地域の課題や将来展望、行政の施策等について話合いを継続する中で、互いに担うべき役割を明らかにすることを目的に、以下の３つの懇談会を開催している。

１つ目は、「テーマ別懇談会」であり、テーマ別に行政が主催している。

２つ目は、「自治懇談会」であり、地域振興組織を単位として、当該組織が主催している。

３つ目は、「団体懇談会」であり、女性会等の団体を単位として、当該団体が主催している。

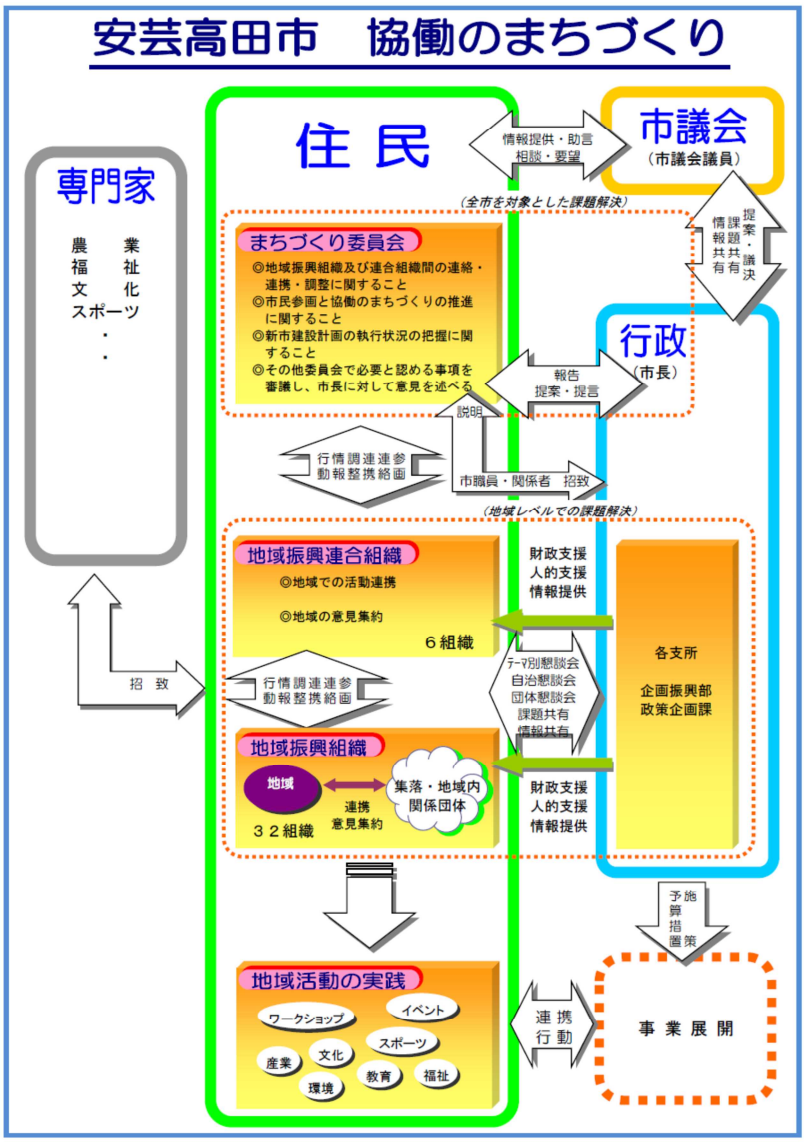
まちづくり委員会と市民フォーラム

活動に積極的に取り組んでいる地域振興組織代表の意向を市のまちづくりに反映し、地域振興組織と行政の協働体制の拡充を図るため、地域審議会にかわる組織として、平成 17 年４月に「まちづくり委員会」を条例設置した。

「まちづくり委員会」は、６つの連合組織から推薦を受けた各５名の代表者、計 30 名で構成されており、住民自治組織活動の拡充を図るための相互連携や、各種計画策定への参画、市域全体に関わる課題への対応等について委員会での協議を行っている。

また、市民フォーラムの企画運営も行っている。市民フォーラムは、合併後の市民の一体感の醸成と地域振興組織間の連携の推進を目的に開催されており、地域活動の報告やまちづくりへの提案などが行われている。

≪協働のまちづくりの概念図≫



川根（かわね）振興協議会

組織形成の経緯

川根地域は、安芸高田市の北端に位置し、19 の集落で地域を構成している。平成 27 年 3 月時点の地域内人口は 484 人（224 世帯）、高齢化率は 45.5%となっている。

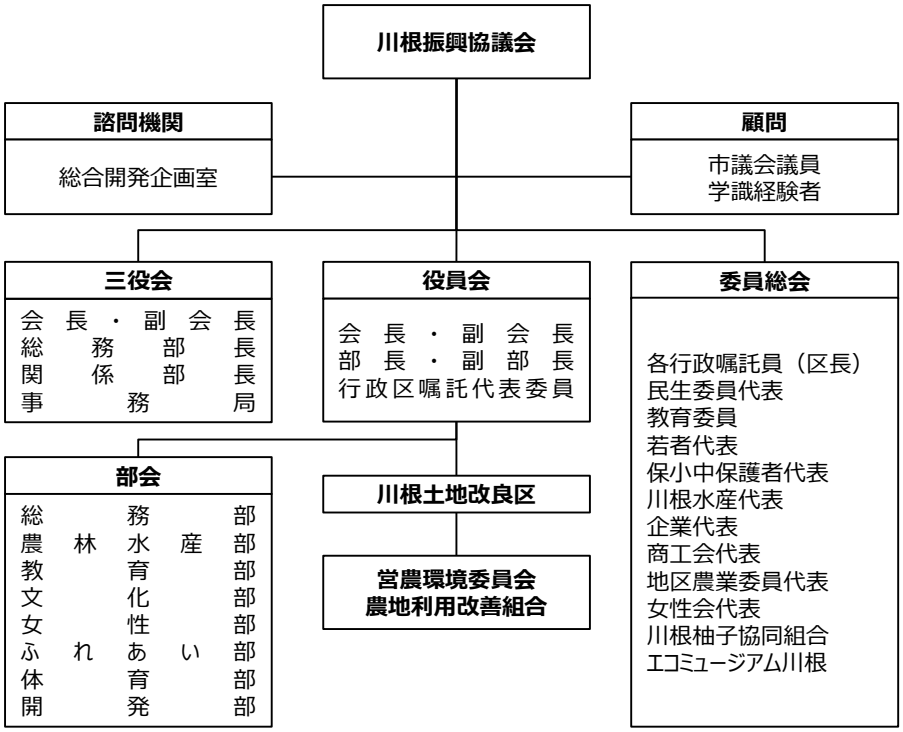
昭和 40 年代からの高度成長期における人口流出が加速していくなか、昭和 47 年 7 月の洪水により川根地域は壊滅的な災害を受け、過疎化に拍車がかかった。

「自分らにできることは自分らの手で」という思いで、同年２月に結成された「川根振興協議会」は、被災をきっかけに災害復興や過疎化、高齢化による地域の危機感から広範な活動を開始した。

組織体制

川根振興協議会は、総務部以下、８つの部会で構成されている。役場の職員が事務局の機能を担っており、補助金等の支援に関する情報の提供も行っている。

≪組織体制≫



「エコミュージアム川根」と「川根夢ロマン宣言」

平成２年に、川根振興協議会では、廃校になった中学校跡地・施設利用について，「地域をまるごと自然博物館にする」との趣旨で「エコミュージアム川根」の建設を当時の高宮町に提案した。建設された施設は川根振興協議会が運営しており，行政への提案型住民自治のシンボルとなっている。

平成３年には、地域住民が「心の過疎」を打ち破ろうと、地域の文化、歴史、資源を探し、川根地域の将来像を描いたイメージイラストマップ「川根夢ロマン宣言」を作成した。このマップは、平成３年に、広島広告協会が贈賞する「広島広告企画製作賞」のチラシ部門で金賞を受賞し、地域住民に誇りと自信を与えている。また、このマップを各家庭に配布するとともに、都会に転出している出身者にも送付した結果、都会と地域との交流が生まれるようになった。

≪エコミュージアム川根≫



多様な地域活動の展開

川根振興協議会では、多様な経済活動、交流活動、福祉活動を展開している。

経済活動としては、交流拠点施設である「エコミュージアム川根」の運営を行っている。

交流活動では、群舞するホタルの生育環境を守るとととともに「人の流れ」から「小さな経済」へと繋ぐため、「ほたるまつり in 川根」を開催している。

福祉活動では、安心して住める地域づくりのため、一人一日一円募金が行われている。この募金を財源に一人暮らしの高齢者の訪問活動を行っている。

「万屋」「油屋」と「もやい便」

川根振興協議会では、上記以外にも地域住民の生活を支えるための取り組みを行ってい

る。

JA の撤退で店舗が廃止されたことを受け、住民出資により、「万屋」（ふれあいマーケット）と「油屋」を運営している。

また、平成 21 年からは、地域住民の生活実態に合わせた交通便「かわねもやい便」の運行をスタートさせた。市から運行及び予約受付業務の委託を受け、通学・通院を始め、市中心部への運行を行っている。毎月 1 日、10 日、20 日には、500 円でエコミュージアム川根で食事もできるサービスも行っている。

若者移住と担い手の確保

地域の担い手の確保のために、当時の町長に、若者定住のための住宅整備を提案した。これが受け入れられ、平成 21 年末までに累計 23 棟の住宅が完成し、約 70 人が生活するようになった。住宅入居者の募集に際しては、川根振興協議会に入会し地域活動を行うこと、中学生以下の子供がいること等を条件とした。

生桑（いけくわ）振興会

組織形成の経緯

生桑地域は、豪雪地帯に属し、第一次産業の衰退に伴う住民の流出や高齢化に伴い過疎化が進行しており、地域内人口は、昭和 30 年の約 2,000 人をピークに減少を続け、現在は 500 人程度となっている。

旧生桑小学校は、町内の４小学校の統合に伴って平成 15 年３月に閉校することになり、平成 16 年３月には、６町が合併して「安芸高田市」が誕生することになった。

小学校の統合や市町村合併は、高齢化、過疎化の進む中山間地域にとっては大きな痛手であり、住民の意識も沈滞し、地域崩壊につながりかねない状況となった。

この危機感のもと、小学校の跡地利用や合併後の地域のあり方を検討する中で、自分たちの地域を守る「自治意識」が高揚し、平成 14 年９月に、地域の課題を地域住民と行政が協働して解決していくことを目的に、「生桑振興会」が設立された。

ガソリンスタンドと日用品店舗の経営

生桑振興会では、設立以来、地域住民が相互に助け合う「地域福祉活動」、情報を共有し地域のつながりを高める「広報活動」、安全安心な地域づくりに向けた「防犯・防災活動」、連帯感の向上とコミュニティ活動の活性化に向けた「地域交流イベント」などの取り組みを行っている。

「地域福祉活動」では、廃校となった旧生桑小学校の一部を改修し、介護事業者によるデイサービスや地域内ボランティアによるサロン活動を定期的に実施している。

「地域交流イベント」では、地域内の６つの神楽団による伝統芸能「神楽」の上演などを行い、文化の伝承にも寄与している。

また、平成 23 年度からは、廃止の危機にあったガソリンスタンドと日用品店舗の存続に向けた取り組みを行っている。生桑地域には、ＪＡが直営するガソリンスタンドと日用品店舗があったが、平成 12 年に撤退したため、ＪＡの OB が出資して設立した「有限会社 生桑ふれあい店」がＪＡから委託を受けて経営を行ってきた。

しかしながら、地下のガソリンタンクの老朽化により更新が必要となった際に、費用負担が課題となり、平成 24 年２月末に閉鎖されることになった。ガソリンスタンドと店舗の閉鎖は、特に高齢者の生活に支障を来すことになることから、生桑振興会では、地域全体の課題として、「存続」、「閉鎖受入」に向けての議論を行い、その結果、平成 23 年６月に、振興会がガソリンスタンドと店舗の施設を整備することを決定し、平成 24 年１月にガソリンスタンドと店舗の複合施設である「ふれあい市」を開店するとともに、燃料（灯油・軽油）の配達も開始した。

≪ガソリンスタンド≫



≪日用品店舗≫



≪燃料の配達≫

